

臨床腫瘍セミナー

「末期がん患者の在宅ケアにおける

8月20日

(火) 18時~19時

病院と診療所の連携」



医療社団法人パリアン
クリニック川越・院長

川越 厚 先生

<講演内容>

末期がん患者の病診連携においては、受け皿としての診療所の総合的なチーム力が重要な意義を持っている。チーム力とは診療所医師の臨床能力、連携する訪問看護師の臨床的Competency、両者の緊密かつリアルタイムの連携（ケアの哲学と実践プログラムの徹底、情報交換、24時間体制など）を意味する。

クリニック川越は“パリアン”という在宅ホスピスケア専門チームを組織し、年平均約180症例のがん在宅死に関わっている。このような成果を上げることができるのは、地域のがん治療病院と緊密な連携を取っているからである。その病院との連携をどのように取っているか紹介したい。

<講師紹介>

1973年東京大学医学部を卒業後、婦人科がん治療の最前線に。39歳で自らが進行がんになり、死の淵を彷徨うという辛い経験を機に東大講師を辞し、在宅ホスピス医となる。その後賛育会病院長時代に緩和ケア病棟を開設。2000年6月にクリニック川越を中心としたパリアン（訪問看護、訪問介護など）を設立し、在宅ホスピスケアの量の拡大に挑んできた。

<次回開催のお知らせ>

平成25年9月17日(火)
18時~19時

当学 臓器再生外科学講座
助教 佐瀬 善一郎 先生
「胃癌治療の現状と展望
~欧米と本邦の比較を交えて~」

- ◆がん治療に携わる医師及びメディカルスタッフを対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆本セミナーは「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」事業の一環となっております。
- ◆本学大学院生は、大学院授業要項で規定する共通必修科目（規定の8）に該当します。

<問い合わせ先>

福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター
がんプロフェッショナル養成支援室

TEL : 024-547-1806 (内5112) mail : yamadaa@fmu.ac.jp